



オオスミ 代表取締役

大角 武志氏

——昨年伸びた業務は。感染症の影響で商談等多くの業務が停滞し厳しい時期もあったが、環境というキーワードに対しては追い風になってきている。SDGsの認知度も高まり、ESG経営など企業は様々な取り組みを開始している。

ホームページから依頼が入っている。当社の評判が良い点は、省エネ設備を導入する省エネではない

定や排気などのアドバイスもできる。強化された環境規制を順守するだけでなく、工場や事業所で働く人がより良い環境で働けるように助言してい

たのがきっかけだ。ベトナムでは古い設備が多く使われているが、最新設備にする予算がない場合、今使っている機材で省エネをする方法を打診

うなど、少しでも涼しくなる工夫をしている。——分析業務の電子化の取り組みは。コロナ禍において対面しなくてもオンラインで

も良いとする事業所が官民ともまだ少ない。重要なのは押印された証明書より、試料採取から分析過程がトレーサビリティ（追跡可能）であるかどうかだ。電子化して分析過程を可視化した方が、より価値があることを周知、理解してもらう活動が必要だ。

——アスベスト分析に。建物の解体が増えてお

社は図面調査から、現場での目視調査、建物や気中からの試料採取、光学、電子顕微鏡での分析まで、長年の経験を活かして現場でどこから採取したら良いかなど助言ができる。健康影響が出ないよう協力したい。

——社会貢献活動は。本社周辺地域の皆さまに楽しい気持ちになってもらえるよう、外周花壇を設置した。また、部門ごとに自主的に行っている社会貢献活動で、公園や海浜の清掃をしている。

省エネ診断と石綿分析好調

自社で環境広報媒体発行

——昨年伸びた業務は。感染症の影響で商談等多くの業務が停滞し厳しい時期もあったが、環境というキーワードに対しては追い風になってきている。SDGsの認知度も高まり、ESG経営など企業は様々な取り組みを開始している。

く、専門家の目で運転、運用面や計測しないとわからないような項目を発見し、依頼者の気付かない無駄を発見する点だ。当社は環境分析が本業なので、省エネ診断に訪問しても環境面でコンサルタントもできる。例えば溶剤を見たら作業環境測

る。——海外での省エネ事業は。ベトナムのダナンにこれまで駐在所を置いていたが昨年の10月からオオスミベトナムとして現地法人化した。省エネコンサルを主業務としており省エネ需要が高まってき

している。ダナンのほかホーチミンでも商工会に入っており、出張して業務を行っている。ベトナムは高温多湿なので工場内が暑い。しかしレンタルしている環境計量証明書は電子化は行いたい。日本環境測定分析協会の検討会にも入っているのだ

り、ひっ迫する位需要がある。当社では無料のWEBセミナーを定期的に開催し、大気汚染防止法の改正に伴う影響と備えて何をすべきかを解説している。各業界向けに開催しており、次回は内装設計者向けに1月26日100名の定員で開く。当

社には労働安全衛生法が改正され、溶接ヒュームの測定義務が4月に施行されるので当社も測定等業務を拡充したい。

社員から編集委員を募集し社内報を年1回発行している。社員が部署の広報や会社全体を考慮するきっかけになる。

さらに社外に向けてZERO CHRONICLE(ゼロ・クロニクル)という雑誌を昨年より発行している。夏と冬までの発行で、2号まで発行した。環境に配慮したサービスを提供している企業や商品の紹介を行っている。0号(準備号)はドイツの特集、1号は台湾、2号は日本国内の企業の紹介を行った。広報誌を通じて海洋プラスチック削減につながる過度なプラスチック利用の削減も支援したい。